



2022年度

(令和4年度)

事業計画（案）

自 2022年4月 1日

至 2023年3月31日

公益社団法人 京都府医薬品登録販売者協会

2022年度 事業計画

自 2022年4月 1日

至 2023年3月31日

基本方針

医薬品登録販売者は、急進展する医学、薬学の進歩、又少子高齢社会の中で、その置かれている社会的責務の重大性を十分に認識し、安心・安全な社会を地域住民とともに目指す、医薬品販売業者としての責務を全うする為、取り扱う医薬品等についての十分な知識を習得すると共に、順次、開発・販売される医薬品についてもまた十分に研修し、生涯教育の実を挙げ、一致協力して、次に掲げる協会の基本方針を忠実に実行しなければならない。

即ち、協会の公共性の拡充と社会的地位の向上を図る為、薬事に関する知識の普及啓発を行うと共に、公益社団法人としての自覚をもって、職能団体として医薬品登録販売者の地位を向上させる活動を行い、さらに、医薬品登録販売者の職能を通じて府民の保健衛生の向上と薬業の進歩発展に寄与することを目的とする。

現在も猛威を振るっている新型コロナ対応は、われわれ医薬品登録販売者も傍観者では済みません。また薬業界をはじめとして地域医療の促進には、多職種間の連携が重視されています。その中で医薬品登録販売者の積極参加が期待されており、一般用医薬品の販売実体を考慮すると「かかりつけ医薬品登録販売者」として広範囲な健康相談者となり、「セルフメディケーション」の支援者、推進者として相応しい、と指摘されています。我々はそれに答えていく社会的責任を持っています。

事業計画(案)

1. 登録販売者の資質及び職能の向上に関する事業(公益目的事業1-1)

(1) 全日本医薬品登録販売者協会全国統一薬事講習会

(公社)全日本医薬品登録販売者協会が厚生労働省の後援により、都道府県毎に行なう講習会を全国統一薬事講習会と位置付け、さらに内容を充実し、京都府・京都市と協力して、会員・非会員問わず全ての医薬品登録販売者の資質の向上を図る。

(事業内容) 10月、京都市内に於いて実施(90分)

講師：厚生労働省技官
京都府薬務課係官
京都市医療衛生企画課係官
学識経験者

(2) 基準講習会等

都道府県並びに政令指定都市主催の基準講習会を、京都府薬務課、京都市医療衛生企画課と開催し、医薬品登録販売者の資質の向上を図る。生活の高度化並びに多様化する消費者ニーズに対応する為、医薬品登録販売者として必要な薬事・薬学等の知識の向上を図るため、医学・薬学・生理学等の専門の講師を招き、より高度な講習会を開催する。また、全世界を震撼させている新型コロナウイルスに対しても医療関係者の一員として、最新情報の中から正しい知識の習得を図り、地域住民の感染防止に役立つよう、活動する。さらに薬物乱用防止推進のためにも「危険ドラッグ」「大麻」などよりタイムリーなテーマも臨機応変に取り上げていく。

(事業内容) 6月、京都市内に於いて実施(90分)

講師：京都府薬務課係官
京都市医療衛生企画課係官

学識経験者

(3) 医薬品登録販売者生涯学習研修会

(公社)全日本医薬品登録販売者協会研修委員会と学識経験者とで作成された、全国統一のカリキュラムで行なう研修会で専門性を高め、副作用等の情報伝達を徹底し、生活者のセルフメディケーションを補助し、地域のヘルスナビゲーションとして寄与するために年6講座=6月1講座、8月2講座、10月1講座、12月2講座(540分)を開催し、より店頭販売実践研修にするため「医薬品の販売時における注意点」も考慮する。

そして新型コロナウイルスによる感染症大流行に鑑み、リモートによる研修会の開催など、新機軸(オンライン)の開催方法を検討、模索し、実践する。

講師：学識経験者

(4) 消費者のための講習会および女性部研修事業

地域の消費者に向けて、協会「研修センター」を活用し「医薬品の正しい服用講習会」、「病気になるない身体づくり教室」を開くなど、医薬品の販売と健康への啓蒙を通じて、より一層府民の健康増進に寄与するものとする。

さらに、女性部が専門知識の蓄積向上に努める為に開催するパール会、我々が本来得意とする漢方、薬膳や中医学の特別研修会も実施する。さらに要請があれば老人ホーム、介護施設等に出張しての「薬の正しい使用法」をアドバイスする為の研修会の実施と、行政と業界、協会の相互理解を深めるために行政との懇談会を開催したい。

講師：学識経験者

(5) 店舗の自主点検と巡回指導による医薬品等の有効性、安全性の確認事業

店舗の設備、医薬品等の管理状況等を自主的に調査し、薬局・薬店に勤務する医薬品登録販売者が府民にとって安心・安全な医薬品の供給者たるよう意識向上に努める。

自主点検表作成にあたっては、京都府薬務課の指導を仰ぎ、医薬品登録販売者には回答を義務付けている。本年も勤務者としての自主点検項目を加えて実施したい。

さらに、役員・理事を指導員とし、巡回指導にあたり、医薬品等が適正に管理され正しく販売されるよう充分なる指導に努め資質の向上を図る。なお、結果は京都府薬務課、京都市医療衛生企画課に例年通り報告する(各保健所へも届けます)。

2. 医薬品の適正使用に関する啓発及び知識の普及事業(公益目的事業1-2)

(1) 麻薬・覚せい剤・大麻、危険ドラッグ等薬物乱用防止、「薬と健康の週間」に

関する事業

麻薬・覚せい剤、危険ドラッグ禍撲滅は今や全世界的緊急課題であり、京都府が実施される諸行事、京都府が制定された危険ドラッグ防止条例に積極的に協力することは勿論、府民に麻薬・覚せい剤、危険ドラッグの恐ろしさを徹底熟知させる為、街頭啓発運動を行い、啓発資料を店頭等においても繰り返し配布し、追放運動を高めていく。また、運動成就のため、他業界とも連絡を密にし、警察当局、各種関係団体等を交えて協議し根絶できるよう努める。

毎年11月、本会が全国に先駆けて実施してきた街頭キャンペーン「ダメ・ゼッタイ」普及運動は、京都府が主体となり、平成5年より国際麻薬乱用撲滅デー（6月26日）に合わせて行ってきたが、一昨年、昨年とすべてがコロナ禍のため中止せざるを得なかった。

今年度は各団体とも協力し、京都府薬務課、京都市医療衛生企画課、京都府警本部と共に、四条河原町周辺に於いて麻薬・覚せい剤、危険ドラッグ禍撲滅を府民に訴えていきたい。秋に実施されている薬物乱用防止府民大会はこれまで通り運動の中心となって参加していく。

(2) 医薬品適正使用普及啓発事業

京都府薬剤師会等と協調し、厚生労働省、薬業団体連合会、京都府の行う「薬と健康の週間」行事に積極的に参加し、府民に正しい薬の使い方と健康の知識を普及啓発することに努めると共に、一般用医薬品、大衆薬（OTC医薬品）の振興を図り、その正しい使い方を周知させることを通じ、府民の健康自主管理の知識を向上させるよう努める。

(3) 優良医薬品等の普及および流通の適正化事業

医薬品等の取扱いその他薬事に関する情報の収集および調査研究、書籍等の購入および学会への関係者派遣等により、情報の的確な収集と調査・研究・分析を行い、これらを登録販売者等の利用に供して、優良医薬品等の普及および医薬品による事故防止に努める。

(4) 医薬品等の販売姿勢の適正化の促進

京都府薬剤師会、京都府医薬品小売商業組合、薬業団体、医療関係団体等と販売姿勢の適正化に関する意見交換を実施する等、経営安定に関する資料の収集を行い経営の改善及び安定化を図る。

(5) 献血に関する事業

エイズ、肝炎等の災禍にみられるように、今や国内に於ける純正なる血液の供給は

重大なる社会問題である。本会は50余年前より毎年集団献血を実施し、関係方面より高く評価されている、過去には日本赤十字銀色有功章、金色有功章、日本赤十字社社長近衛忠輝様より特別感謝状拝受、公益社団法人全日本医薬品登録販売者協会として全国運動として取り組んできた献血運動は「昭和天皇記念献血推進賞」を皇太子殿下(現、天皇陛下)直々に拝受する栄にも浴しました。これからも尚一層全会員の協力を以って会員家族は勿論、近隣府民の方々に呼びかけ、昨年と同じ人々の集まりやすい近鉄 MOM テラスで、7月に実施し十分な血液が確保できるよう努めます。

3. 京都府委託事業「薬草に親しむ会」開催（公益目的事業1-3）

(1) 「薬草に親しむ会Ⅱ、薬膳インストラクター養成講座」

平成27年より始まった薬膳インストラクター養成講座は3年間の研修を終えた3期生の卒業生が1年遅れで誕生、今年度は初級、上級クラスを実施しさらに第4期卒業生を輩出します、新型コロナ禍で自習できる薬膳学概論教科書は京都府の支援を得て完成しました。中級、上級クラスは年間約30時間に及ぶ研修をこなし、受講生は数人の落後者はあるものの、勉強の成果を遺憾なく発揮しておられ、京都府からもいい評価を頂いております。資格修得に向かう並々ならぬ意気込みが伝わってきます。

また、初級は日本新薬山科薬用植物資料館での現地実習、中級は当事業の講師であった森先生ご夫婦が運営されております「チョロギ村」(亀岡市)を見学と実習の場として利用させていただきます。上級は薬膳事業にご指導を頂いております天然薬用資源開発機構理事長 山原條二先生が運営されております「京都薬草の森公園」(左京区花脊)に現地研修させていただきます。

薬膳インストラクター養成講座事業は、健康志向とくに健康年齢を伸ばし平均寿命との差を縮めること、すなわち「健康の基本、毎日の食の積み重ね」を実践して未病を解消してもらうために、薬膳指導者を養成しながら府民の健康を勝ち取るため、登録販売者協会として率先して事業実施したいと考えます。

昨今の状況に鑑み、この講座もリモートによる受講ができるよう、準備したいと考えています。主催者である京都府に相談し、資金面と技術面のサポートを得て実施する予定です。

(2) 薬草・生薬研修会

国民の健康志向の意識向上に伴い、薬草・生薬や漢方薬への関心も高まっている状況に鑑み、我々登録販売者の前身薬種商が江戸時代に発祥し専業として関わってきた漢方・家庭薬これに充分対応出来るよう専門学識者を招き、あるいは会員相互の研究発表といった形で、本会研修センターおよび近隣の薬草園での実地研修を行い、一層の資質向上を図りたい。さらに薬膳学との関連学習をはじめ、ここでも健康志向とくに健康長寿を目指した研修と認知症と生薬についての学習も取り入れて、時代に合致

した研修会を実施したい。

4. 令和4年度総会事業

(公社) 全日本医薬品登録販売者協会総会

未定

(公社) 京都府医薬品登録販売者協会総会

令和5年5月28日(日) 10:30分から 協会会館3階

5. その他事業

- (1) 新年大会 令和5年1月14日(土) グランヴィアホテル京都にて
黒田美喜理事 叙勲祝賀会を兼ねて開催予定
- (2) 会報「京薬協 新年度号」の発行(年1回4月)、「会員通信」年6回発行
会報は年度報告のため4月発行に移動しております
- (3) 賠償責任制度の加入促進(店舗販売業者A会員は会費に含む、B会員登録販売者には、僅かな掛金で加入できる安心の賠償責任保険制度を提供)
- (4) 新たに「優待会員制度」をスタートさせます。詳細は会則にて決定します。